

## 【開催案内】第7回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しま

2015年12月21日

す！

学生の皆さんへ

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援するために、第7回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を、下記のとおり開催します。

「小児科領域」に携わるおふたりの小児科医師と看護師の先輩方に、経験談を語っていただきます。将来のロールモデルとなる先輩を囲んで、和やかな一時を楽しんでください。

記

### 【演題】

「子供たちの命と健康を支える」

新生児看護から地域の小児科医療まで、先輩が語る！

### 【講師】

阪上 由子 医師

(滋賀医科大学医学部附属病院小児科特任助教、滋賀医科大医学科19期生)

中村 美智 看護師

(滋賀医科大学医学部附属病院看護部NICU/ GCU 6年目看護師、  
滋賀県立総合保健専門学校卒業)

西澤 嘉四郎 医師

(近江八幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生)

### 【開催日】

平成28年1月13日(水) 午後6時～8時

### 【場所】

リエイティブモチベーションセンター CMCホール

### 【その他】

夕方の時間帯なので、パンと飲み物を用意しますので、事前に申し込んでいただくと助かりますが、当日参加も大歓迎です。都合で途中からの参加も可能ですので、お気軽に申込みください。

### 【申込先】

認定NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

TEL:077-548-2802 FAX:077-548-2803

E-mail: [satooya@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:satooya@belle.shiga-med.ac.jp)

## 第4回滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会が開催されます

2015年12月11日

日時：平成28年 1月20日(水) 17:40～(1時間程度)

会場：滋賀医科大学医学部附属病院

医師キャリアサポートセンター室 (病院3階 第3会議室前)

講師：滋賀医科大学 整形外科 医員 高田 大輔 先生

テーマ：滋賀医大病院の研修の実態、進路を決めた理由、現在の仕事内容について

参加費：無料です。

詳細につきましてはHPをご覧ください。  
<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

〔問合わせ・申込先〕  
滋賀県医師キャリアサポートセンター  
事務担当・相談窓口： 滋賀医科大学病院管理課  
住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町  
TEL：077-548-3656  
E-mail： [ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp)  
担当：左近田 北川

## 11月6日に「第6回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年11月27日

11月6日に開催しました第6回「卒業後の自分を考える連続自主講座」では、講師に野村哲哉医師、池川貴子医師、上里佳那子助産師、村上 節医師をお迎えし、各々の先生から次のような話を聞かせていただきました。

野村 哲哉 先生(南草津野村病院理事長・滋賀医大卒業2期生)

学生時代は心臓外科を目指していましたが、滋賀県では多くの心臓外科医を必要としないが産婦人科医は必要だったので、外科的なこともできると考え産婦人科医になりました。それでよかったと思っています。

県内に二つの産婦人科病院と助産院を経営し、今までに25000名の赤ちゃんを取り上げました。

今もって産婦人科医のみならず助産師も不足しているのが滋賀県の現状です。



池川 貴子 先生(滋賀医科大学医師臨床教育センター2年目研修医・滋賀医大卒業34期生)

学生時代から産婦人科医になりたいと思い、里親支援制度で野村先生に里親になっていただきました。大学卒業後は出身地の神戸に帰るつもりでしたが、野村先生や村上先生に滋賀や滋賀医大の先生方の魅力を改めて伺い、滋賀医科大学に留まる決意をしました。

産婦人科の魅力は、「生まれる」瞬間、助けられるのは2人(母親と子供)であること、多くの治療法・手技があり、患者さんへの対応がそれぞれに違うことです。また、ロールモデルとなる女性医師が多くいることも魅力のひとつです。

大学病院の魅力は、先生方が熱心で優しい方が多く、多種多様な症例があり、周産期・婦人科腫瘍・不妊など多岐に渡って学べる環境に恵まれているということです。また、夜間も次の日を気にすることなくしっかり働けるよう「副直明け休み制度」も調えられており、働く環境にも恵まれています。



上里 佳那子 氏(滋賀医科大学医学部附属病院看護部MFICU 4年目助産師)

「いいお産」とは、どのようなお産だと思いますか？ 学生へ問いかけながら、出産前に胎児に奇形があることを告げられた父母の、出産前から赤ちゃんが亡くなるまでのわが子を思う気持ちの変遷と、その家族に寄り添った助産師の思いについて、参加者の心に迫る発表をいただきました。

赤ちゃん誕生を、状況によっては「おめでとうございます」と口に出せないときがあります。「おめでとうございます」言えるかどうかは、家族によります。「いいお産」とは、赤ちゃんを家族が迎え入れられるお産だと思います。

滋賀医科大学附属病院では、ハイリスクのお産について勉強しています。



村上 節 先生(滋賀医科大学産科学婦人科学講座教授)

精子と卵子の天文学的数字の割合で私たち一人ひとりが生まれてくることは奇跡です。

がん治療を行うと女性は閉経が早まり、子どもを持つ機会が奪われますが、現在では卵子を凍結でき、閉経後も子どもを持つことができるようになりました。この生殖医療情報は、医師のみならず、助産師、看護師、事務職員なども知っておかなければならないし、患者に提供する必要があります。滋賀医科大学では、滋賀がん・生殖医療ネットワークを構築し発信しています。



お話の後、学生からの質問に各先生が丁寧に答えいただき、次の話が印象に残りました。

- ・お産の基本は、通常分娩です。お産にリスクの「有る」も「無い」もなく全て同じです。
- ・臆病で心配があれば医師にすぐに報告してくれるような助産師になってほしいです。
- ・産婦人科医はハードワークとされていますが、現在60歳の野村先生は、患者さんが来てくれるうちは花であると思い、仕事のオン、オフを切り替え、どこでも眠れるように心がけておられます。

また、村上教授は、大学病院は地域の病院と違って、一人の患者さんを固定医師で受けもたず医師チームで受け持つことや、副直明け休み制度等を取り入れる等して、負担の軽減に努めておられます。

・どの先生も患者さんとの心温まるふれあいに一番感動したと、語っていただきました。

医療現場で勤務されている看護師の方々からの声も聞け、参加された学生・一般市民の方は大変有意義な時を持つことができました。



～参加された方からの声～

- ・たくさんの先輩の仕事に対する思いをきけて、とても頑張りたい気持ちになりました。
  - ・医師・研修医・助産師それぞれの立場からの話がきけて、面白かったです。生命の誕生について見直す良い機会となりました。
  - ・妊娠・分娩・産後とつながっているが、ひとつひとつの経過が奇跡なのだと改めて感じました。患者さんが中心にあり、患者さんにとっての良いお産を手助けできる助産師になりたいと私も思います。
  - ・感動しました！出産ってキセキ！
  - ・産婦人科の先生方のやりがい聞いて刺激になりました。これからの医学の勉強が非常に楽しみになりました。
  - ・違った立場にいる4人の先生方からお話を聞くことができ、とても参考になりました。ドラマでコウノドリを見ていますが、現場で直接働いていらっしゃる人の言葉はドラマよりもずっと感動的で「奇跡のすぐそばにいる」ということがひしひしと伝わってきました。また、いつもと違ってたくさんのスタッフの方がいらしゃって、質疑応答において、様々な意見を聞くことができ良かったです。
  - ・産婦人科は「助けるのが1人じゃなくて2人！」という言葉が印象に残りました。
  - ・将来助産師を目指しています。今日のお話を聞いて、妊娠するということがまず“奇跡”で、そして生まれてくるということも奇跡なんだと思いました。人が誕生する瞬間に立ち会うことが出来るというのはすごく感動的だし、その産まれた子どもが大きくなってまた自分がお産をとらせてもらえることもあって、女性の一生に携わることが出来る仕事って良いなと思いました。
- これから、母性の実習や助産実習があり、大変なこともたくさんあると思いますが、今日のお話を聞いて楽しみにもなりました。
- ・「いいお産」というものが、必ずしも赤ちゃんの健康だけを意味しないということが心に残りました。
- 私は進路について、助産師を検討していますが、実際にゆきちゃんのような子のケースを扱うとしたら、どんな風に向きあえるのか、ご家族にどんな声をかけていいか戸惑うと思います。まだ少し時間があるので、後悔のない進路選択をしたいです。
- ・普段なかなか聞けない、本当にリアルな部分をきけて、とても良かったです。質問しようと思っていたことを話してくださって、聞いていて良かったです。
- また、ベテランの先生から若手の先生まで、幅広い年代の方の話をきけて、色々な考えなどを知れて良かったです。
- ・ゆきちゃんの話では涙が出そうになりました。ゆきちゃんのお母さんが亡くなったゆきちゃんをお風呂に入れてあげ、お父さんが上手に抱き上げた、というところに涙が出そうになりました。
- 今日の講座を聴いて、出産は本当に「奇跡」だと思いました。
- 産科の現場での実際のお話がとても興味深かったです。ありがとうございました。
- ・助産師の学生です。
- 将来は産婦人科領域に就職しようと思っているのですが、滋賀医大で働いておられる助産師さんのお話を聞いて、とても良い機会になりました！滋賀県で働きたい思いが強くなりました。

・非常に有意義な時間を過ごさせて頂きました。産科医療の現場に携わる方々からのお話を  
医師からだけでなく助産師の方々の立場から伺うことができ、来てよかったと思えました。  
産婦人科医が働く上での配慮があることがわかり、とても安心しました。  
実際に産婦人科医療に携わっている方のお話を聞くことができ、刺激になりました。  
・産科領域全体のお話を聞くことが出来良かったです。  
現在の産科医療、生殖医療の進歩等、臨床の実態を知ることができたのは良い機会でした。  
モチベーションアップにもつながりました。  
・助産師を目指しています。本当に貴重なお話をありがとうございました。これからも継続して  
やって頂きたいです。滋賀県のお産を充実させていきたいです。

## 【開催案内】第6回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しま

2015年10月27日

す！

学生の皆さんへ

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援するために、第6回  
「卒業後の自分を考える連続自主講座」を、下記のとおり開催します。  
今回は、産婦人科医師と助産師の先輩方から、リアル『コウノドリ』（現在TBS金曜ドラマ放映  
中）の世界についてお話しいたします。

記

### 【タイトル】

リアル『コウノドリ』の世界を知ろう

～毎日奇跡のすぐそばにいる私たちから君たちへ～

※『コウノドリ』週刊モーニング連載中」「TBS金曜ドラマ放映中」

### 【講師】

野村 哲哉 医師(南草津野村病院理事長、滋賀医科大学医学科2期生)

池川 貴子 医師(滋賀医科大学医師臨床教育センター2年目研修医、  
滋賀医科大学医学科34期生)

上里 佳那子 助産師(滋賀医科大学医学部附属病院看護部MFICU 4年目助産師、  
滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科卒業)

村上 節 医師(滋賀医科大学産科学婦人科学講座教授、東北大学医学部卒業)

### 【開催日】

平成27年11月6日(金曜日)午後6時～8時

### 【場所】

滋賀医科大学クリエイティブモチベーションセンター CMCホール

### 【その他】

夕方の時間帯なので、パンと飲み物を用意しますので、事前に申し込んでいただくと助かり  
ますが、当日参加も大歓迎です。

将来のロールモデルとなる先輩を囲んで、和やかな一時を楽しんでください。

### 【申込先】

認定NPO法人 滋賀医療人育成協力機構(里親学生支援室内)

TEL:077-548-2802 E-mail:satooya@belle.shiga-med.ac.jp

## 湖西地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2015年9月9日

8月24日(月)・25日(火)に、湖西地域方面(高島市)を訪問させていただいた平成27年度夏の宿泊研修には、里親登録学生を含む本学学生15名(医学科14名、看護学科1名)と自治医科大学生1名が参加されました。

24日(月)1日目

滋賀医科大学を出発し、浜大津港近くの大津赤十字病院を左手に見ながら約40キロメートルの道のりを経て、今回の研修の地である高島市内へ向かいました。

#### ① NPO法人元気な仲間訪問

平成27年4月1日にオープンされた、真新しい小規模多機能型居宅介護施設の見学をさせていただきました。

その後場所を変え、NPO法人元気な仲間理事長 谷仙一郎氏から、法人設立の経緯と、高齢化率31.7%の高島市で、行政に任せるばかりではなく、住民同士が支え合い、援助できる人(まかせて会員)と援助を求める人(よろしく会員)という形で、生活での困りごとを会員同士が助け合う相互扶助の取り組みについてお話をいただきました。



#### ② 地域見学(藤樹書院)

中江藤樹の住居跡・講堂跡である藤樹書院を訪問し、江戸の儒学者 中江藤樹の生涯や教えについての説明を聞きました。



#### ③ 高島市民病院訪問

湖西地域の中核病院である高島市民病院を訪問させていただきました。

高山病院長から湖西地域における高島市民病院の概要と役割や、2年後には総合診療科を開設する将来への展望についてお話をいただきました。

その後、院内救急施設、ヘリポートや病棟、また地下にある免震設備などを見学させていただきました。





#### ④ 交流会



夕方は、宿泊先の今津サンブリッジホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、高島市健康福祉部健康推進課 課長 清水 勝徳氏から「高島市の概要と地域医療について」、朽木診療所 所長 倉田 佳彦氏から「地域で学ぶ地域医療～朽木診療所に赴任して～」と題してご講演いただきました。

交流会第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親の方々もご参加いただき、和やかな意見交換、懇談の場となりました。



#### 25日(火)2日目

##### ① 地域見学(朽木溪流魚センター、興聖寺)

あいにくの雨模様の中、朽木溪流魚センターへ向いました。

溪流魚センターは朽木のメインストリートから、脇道を30分ほど入ったところにあります。その先にある高島市民病院平良出張診療所や、その奥の高島市民病院針畑出張診療所への道は、バスでの通行が不可能で、残念ながら訪問することはできませんでしたが、その地域に診察や介護に出向かれる、朽木地域の医療従事者の実情を知る良い機会となりました。

その後、朽木氏の菩提寺である興聖寺を訪問し、住職からお寺の歴史についてのお話を伺いました。





## ② 高島市国民健康保険朽木診療所訪問

旧朽木村唯一の医療機関である高島市国民健康保険朽木診療所を訪問し、倉田所長の案内で、昨年5月に木造で新築された診療所を見学させていただきました。

医師1名、看護師2名、事務員2名の診療所では、看護師や事務の方の役割が大きいこと、全ての医療機器の操作は医師が行っていること、診察ではインターネット回線を用いて、総合病院での検査結果などの診療情報を診療所で閲覧できる「びわ湖メディカルネット」の利用や、県医師会の在宅療養システム「淡海あさがおネット」などを利用している等のお話をきかせていただきました。



今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

(この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。)



## 7月15日に「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年9月9日

7月15日(水)午後6時から滋賀医科大学教職員ホールにおいて「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師には、角野文彦先生(滋賀県健康医療福祉部 次長、医師・滋賀医科大学医学科6期生、里親)と、糸山めぐみ先生(訪問看護ステーションオリーブ 所長、看護師)をお招きし、滋賀県の保健医療政策に関わっておられる角野先生から、行政医師の仕事とやりがいについて、また、昨年 近江八幡市に訪問看護ステーションオリーブを開設された糸山先生には、在宅医療(高齢者だけでなく精神、障害児者も含めた)における訪問看護師としての苦労とやりがいについてお話をいただきました。

あいにく試験前のために学生3名の参加となりましたが、両講師を囲んで和気あいあいとした中で、本音を話し合える会となりました。

ご多忙の中、滋賀医科大学までお越しいただきました角野先生、糸山先生有難うございました。



### ○医学科3年生

県レベルでの医療行政のお話など、普段聞けないしあまり知らないことについてたくさん聞いて、とても貴重な体験になりました。

実際の医療現場におられる糸山さんと、行政の立場から医療環境をつくる角野先生と、大学で研究、教育の立場から大局的に医療を分析する埴田先生の三人が、それぞれの立場からお互いを尊重しつつ、良い医療をつくるための輪を生み出している印象を受け、医療に直接的に携わる以外の方法でも、人の健康を守り高めることができるのだなと感じさせられました。

### ○医学科2年生

保健所に勤めておられる先生のお話ということで、どのようなことをお話し頂けるのかと期待を持って参加しました。お話し頂いた内容は、まるで戦国時代の軍師のような仕事ばかりで、お話を伺っていて大変面白いものでした。

### ○看護学科4年生

- ・イメージしにくい行政における医師の役割がよくわかりました。
- ・地域の病院再編などにも関わっておられることを、初めて知りました。

## プチ里親の方から勉強会のお知らせ(9月19日開催)

2015年8月14日

「彦根市の地域医療を守る会」 第33回 勉強会

日 時: 9月19日(土) 10:00~11:30

場 所: 彦根市立病院 医療情報センター

テーマ: 「新たな救急医療体制について」

「警察からのお知らせ」

☆ 詳しくは、こちらをご覧ください⇒「彦根市の地域医療を守る会」第33回勉強会.pdf

### 里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ(懇談会)を行いました

2015年7月6日

6月23日(火)の昼休みに、里親登録学生(新規登録学生5名を含む)と里親学生支援室員との懇談会を、CMC(クリエイティブモチベーションセンター)ホールで開催しました。

まず、初めに埴田室長から里親学生支援事業の概要についての話があり、室員や事務スタッフ、学生の自己紹介が行われました。その後、今年度の事業計画について具体的な説明がありました。学生には、「里親の先生方は、学生からの連絡はうれしく思っているし、気にしてくださっているので、忙しくすぐに返信が無い場合もあるかもしれませんが、一報を入れてください。また、何か希望があれば言って欲しい、研修にはより多くの学生が参加して欲しいので地域医療に興味を持っている友人やクラブの後輩なども誘って参加して欲しい」との呼びかけがありました。

今後の事業予定

- 1 学生と里親とのマッチング(新入生5名)
- 2 第5回「卒業後の自分を考える」連続自主講座(7月15日 18時~)
- 3 夏期宿泊研修 湖西方面(8月24日~25日)
- 4 里親・プチ里親との研修会・意見交換会(1月)
- 5 春期宿泊研修 東近江市永源寺・蒲生郡日野町方面(3月)

その他、決定次第、随時メール等で案内します。



### 1月22日に「第4回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年2月6日

1月22日(木)午後6時から滋賀医科大学CMCホールにおいて「第4回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師には、医学科卒業生(8期生)で、現在近江八幡市において開業(小児科)されており、里親学生支援室里親にも登録いただいている石塚千恵先生をお招きし、「～研修医、勤務医、開業、子育て～卒業26年の四方山話」というテーマでお話をいただきました。



1つ目に、大学卒業後、滋賀医科大学小児科での研修医(2年間)・医員(2年間)時代は、医師としての基盤づくりと、結婚、第一子出産、夫の両親との同居が一気にスタートしたが、その新たな生活において「自分中心の主張だけではダメで、周囲の人との協力と譲り合い」が大切である事を学んだこと。

2つ目に、びわこ学園医療福祉センターでの勤務医(9年間)時代は、医師として専門性と研究活動に専念し、第二子出産もあった。その環境で「患者さんが中心で、その周りを囲む患者さんのご家族、上司、同僚の大きな輪の中に自分もいること、その和を大切にすること」を学んだこと。

そして現在、近江八幡市で開業医として地域の患者さんの疾患を診療するだけでなく、今までの経験を生かし育児支援のできる医師を目指し日々奮闘されているご様子を生き生きと聞かせていただきました。

自分自身が一番と考える「ピラミット型」思考が多い現在において、関係者との和を一番と考えながら前向きに行動されてきた先生のお話から参加された13名の学生は、将来への勇気と希望をもらうことができました。

ご多忙の中講演いただきました石塚 千恵先生、本当に有難うございました。



#### 参加された学生さんの声

- 自分の将来に対するイメージや気持ちの持ち様を考えることができました。自分のキャリア、子どもを産みたい気持ち、家庭を大切にしたい気持ちがせめぎあって、まだ研修病院の場所も何も決めることができていませんが、今日お話を聞いて、自分がいいと思うこと、大切にしたいことをその時々で考えながら、周りの協力も請いたいと思いまし

た。そのためには自分自身の人柄や、困っている人へのヘルプを迷わずすることが重要ななと思いました。

- 「自分自分」ではなく、患者さん、子どもを中心に周りの人々と協力しようとすると、上手く回り始めるものだ、という言葉が心にしみました。
- 女医さんのお話が聞きたいと思っていたので来てよかったです。すごい方だなと思いました。つながりのある人のために頑張ってくれたキラキラした目が印象に残りました。
- 母親業として、女医さんとして、とても両立されているお話を伺いまして、私もばりばり働きたいなと思いました。今回参加できて本当に良かったです。
- すごく生き生きとしたお話がきけて、私も先生のように働いてみたいと思った。困難に立ち向かうのも、すごく糧になると思った。
- 家庭を大切にす女医さんのお話を聞くことができ、参考になりました。育児・仕事の両立はやりたいけど、自分にはできないなと思っていましたが、私もがんばろうと思いました。ありがとうございました。

### 11月6日に「第3回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年2月6日

11月6日(木)午後6時から滋賀医科大学CMCホールにおいて「第3回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

精神科の先生のお話を聞きたいという学生さんの希望で、医学科卒業生で現在は滋賀医科大学精神医学講座教授の山田尚登先生(2期生)、琵琶湖病院理事長・院長の石田展弥先生(2期生)、いしやまクリニック院長の有村真弓先生(23期生)をお迎えし、「将来の君たちに滋賀医大の先輩が語る-教授になる方法、病院長になる方法、クリニック院長になる方法-」というテーマでお話をさせていただきました。

山田先生からは、統計資料をもとに滋賀医科大学開学以降30数年間に精神科に入局した医師達のその後の進路と現在の地位について、また、教授となるための必須条件についてお話をいただきました。



石田先生からは、初めての精神科研修医として入局した当初から現在までの歩みを、同期生であった山田先生との関わりを交えながら楽しくお話いただきました。

有村先生からは、勤務医から開業医になった経緯を猫の話題を交えながら明るくお話いただきました。

どの先生も将来像を若い時から持っていた訳ではなく、チャンスが訪れた時に積極的にチャレンジした決断の結果が現在に至っているとお話でした。



参加された22名の学生は、各先生のざっばらんな生のお話を聞くことができ、とても為になり、和やかで楽しい一時を過ごせたようです。また、自分の将来を考える良い機会になったようです。

ご多忙の中講演いただきました山田先生、石田先生、有村先生、本当に有難うございました。



#### 参加された学生さんからの声

- 精神科医に興味があったので、今回参加させていただきました。先生の実験の話、精神科はさまざまな分野で社会貢献ができるといったここでしか聞けない話がたくさん聞けてとても楽しかったですし、将来こんなことをしてみたいという希望もたくさん持っていました。
- 精神科のイメージが重い感じだと思っていたので、先生方もそんな感じなのかなと思っていましたが、とてもおもしろい方々で驚きました。自分に与えられたチャンスをいかに生かせるかが大切なのかなと感じました。
- 生々しい話がお聞きできて、とても刺激的でした。三者三様のお立場からのお話は、微妙に差がある部分と一方で根っここのところで共通する部分もあって、とても参考になりました。
- 先生たちが楽しそうに話されていたのが印象に残りました。進路についてはまだ何も決められていないけれど、自分の履歴や現在について楽しく話せるような将来にしたいと思いました。
- とても楽しくなりました。行政の関わりや、臨床と研究の関係など、考えたことなかったようなお話もありました。あと、チャンスをいつも逃がしてしまう方なので、ものごとを恐れすぎずやってみることも大事だと思いました。
- 医局に入ると教授が人事を掌握しているということがよくわかりました。教授になるのに必要な条件という話は、他で聞いたことがなかったのでよかったです。
- さすが山田ファミリーという感じで本当に楽しかったです。開業は自分にはムリかなと思っていましたが、いけるかもしれないと思いました(笑)。医者＝まじめでなければ、と思っていましたが、楽しく生きるのが一番かなと思いました。
- 行動力があれば何でもできそうだなと思いました。精神科の先生がすごいフレンドリーでびっくりしました。

